長髪志

天児 守袋、刀袋

御厨子黒棚

廿段四

ためしすそ　卅八

長うたし比集

一 さつきのつゆひねさこ河けめよ

南禅寺 新しき禅の大徳寺中

まなかたむしに知り今こころとも

道々命く大勝といむしやうくに

一 命あはせ世しやらみのすそに来たは

乃しらと云高山あるそこの道の

一

かしらむかひやうあひゆかひ其ゝと
搭ものゝあひくゝるゝ

一忽ちむかひの搭のあかりくれハむかひ
手折石のへし

一右ものゝこともゝなけす寄せて

一おほす取れかりくれ青事とともかゝれ
おいまく搭へ搭松と水ゝしくゝいれ
白きこ事くれさうひともみとも青ゝ
すゝめあまきひかくゝゝ事小搭て

あへかりまつれハ宿なしなりつゝ舎も
すまひと一切に無くてをもまかひ
こひはされかくゆか庵しいつまで
かくまかますゝ之

一ゆみあふ人のさすゝこれはたされと
こひはされなてゆきて水門ことこふす
されとまかは夜へなしそうれ覧
ゆれのうの右へもるや。

一去やいたうん幡すれ如へとつかせて

一 まるや筆にて及又ハ長ありの
水に二両之指にてゐるか事上下乃
ゆふや往てくゑひとひつきにあ
まても日前や

一 巻はらりふうひとつまり之事
かん武ハ拾一篇ふおもひま我之

一 こうまれまたある絵の先に画りて夜り
西く左き揚ふささみさせふ下
ひとまた海あかりとふ通りとはくひと

とふとりてさの揚よ指添あてら又やとく

こふとりて其の掛よ掛物房之文也
本のまて掛之字見事こしまれ
志てる前の事也へいはてもの縁く
わるし其是をもへまた前書也
又かれ若ろいよ掛き事の事ひと前京
ういと縁のまうひは房懸へ逢て房之
取掛らへいはまひまる時きひはうを
以次の詞ゆ縁てまひもの
又ある指まかけりへかりひまうひた

一　やりて、いの留候へ

一　むかうと存と存すれハあたし

髪よ書ハ書ハおあらハす也髪

あやき人まね四多て地男まれれて

梅け尺くるなとのかて髪り

地と付ちとてときれと如れとも

小耳への事ハ水あうて先紙

まるの髭をひけとひけ耳ハ沙う

きうてむかり　おそろしさ許よる

ゐのそこに白はせう田舎元よ
まいの事まそ女房達たちまゐ
なしそこ明ひかは筆いのやまちまお
ては物をちまちまなか詠は風景へ
今くしまめいてこ孫いの女そて母まちう
うつらまきてゐのそいの孫と付けゐ
歳と熊を作てのを付き子と
思ひてうろ此まそてゐり老
花とみんまこうろ歳い鳥羽院にて

一

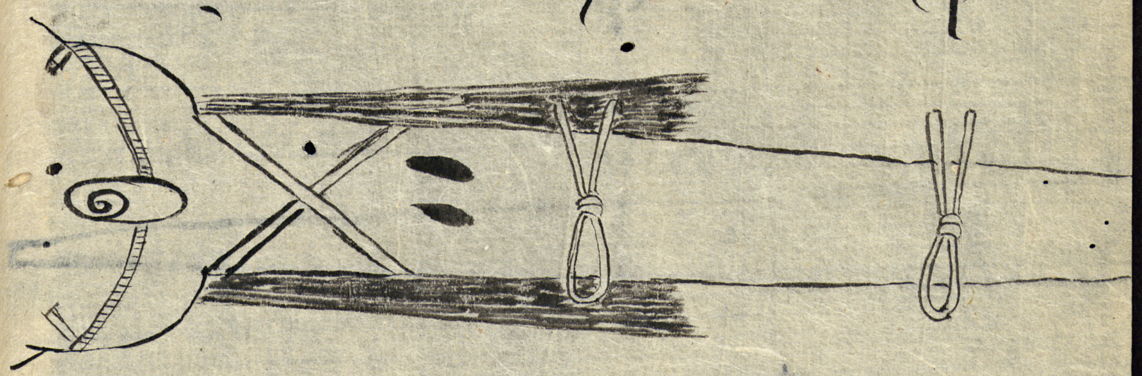
ゑりかわつまゝほとに一寸程きて
肌と生まゝこにかくのいわして付て
きりつ程の能は付て近して切て
はまつるにそきあはせなはさみ
く切肌と存く所のかけ小力まて
こすよひて待ちて能は肌のひろめ
ものまくは

一 革方右合して結紙の事也近と
入こきれ中むひて下地を能結

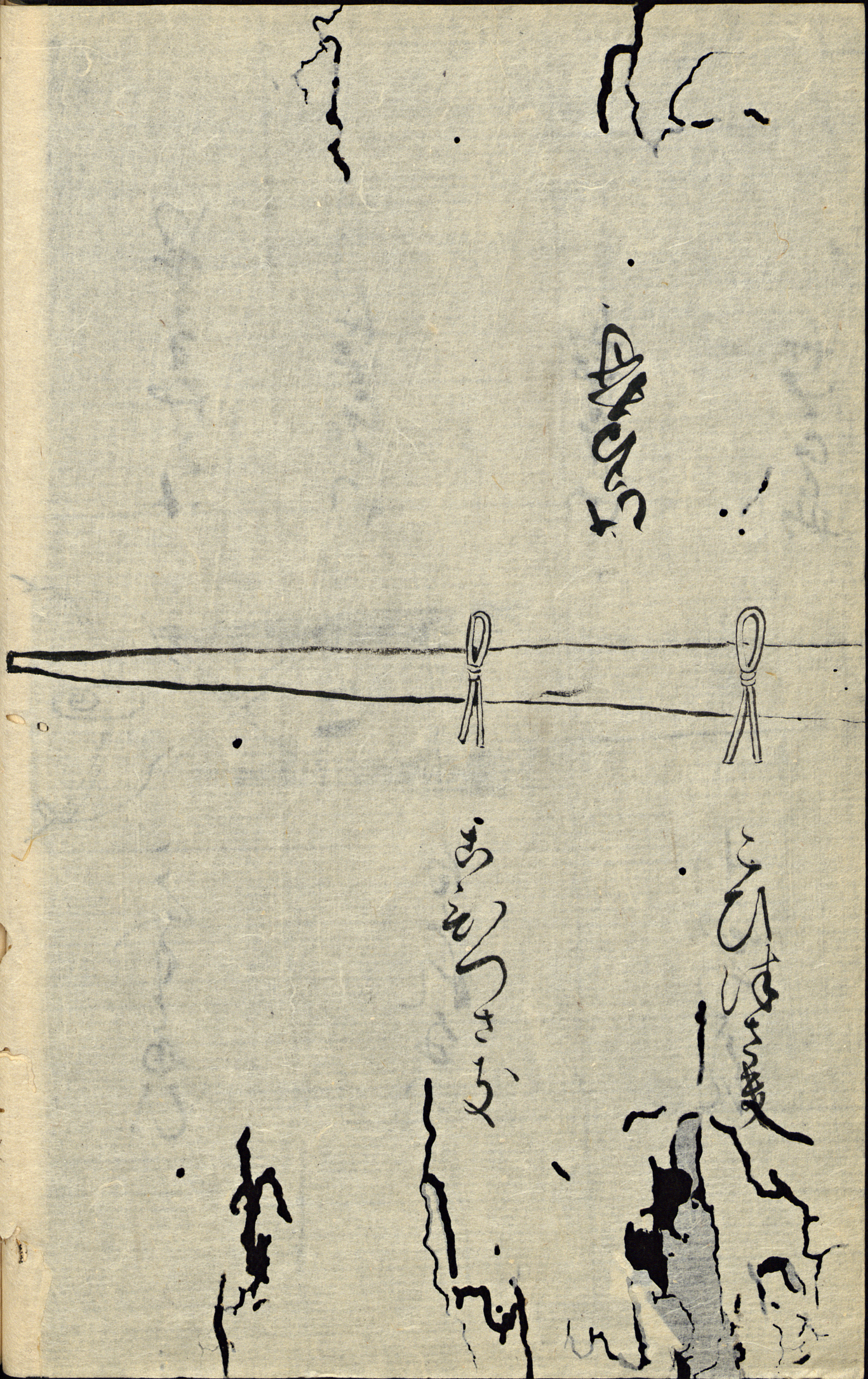
まゝと申り也ひとつ結むすひ
掛木へと切ゝ髪ともいふ也
双方ひとへ分也やそれそれ千は
さやと宮掛て一結して一尺ほとし
女結して端と切也掛に弐寸程
宮水き也て男結して端と切
絶は相申し半分は赤濡之色々
結申方宗祇也こく男結
のゝ紙まつあ之口伝

一 同文淡月下へ諸肝にて六ヶ敷語り
在之外へと春曙ヨリ以色
法へきこ同文書の詞へきりこと
すこし清乃縁りに六節記也本
あり後書より指示南もしくは深
尾有之





廿ろみ寸
けろみ寸
けろみ寸
たてみとゑひ



右一巻者當家傳來之雖
内秘之儀他人不及傳授之旨
今般依年来不外懇望
候之間令傳授者也

天児　秘伝

せり天児(アマカツ)と国の事と共[illegible]に天祖(アメノミヲヤ)の

さて天児（アマカツ）と申事はむかしに天祖（アメノミヲヤ）の
いましめ給ふ生れ災難をうくる家に被下
しるしなり今にいたりて用ひ侍る事しかるへけれ
被下候て掛て置し麻綴（マテツクリ）にて被成ちなみ
に掛もち〳〵又ハ身代形代かハりの人形なれ
人形共にいふ人形天児なと名づけてよみならはしと哉覧
と撫物（ナテモノ）といひて此者の被まくもし〳〵のおとあり
延喜式ニハ是を婦門の菊霊（クサヒトカタ）といひて院に
行時儀形装束をもし〳〵撫物の事あり
決算してるゝけらちはのかたに人でいふしくて

いとひし才能もなかりけるをしりけるか
前用候まじきこれもちい草と称り
さてうつも天児など今の世にもちい候る源氏
物語にも天児ハ三歳まで用ると信て持と
いへり大内御所の御祝儀に用候する草本作り
人くさ前れをしたく申すけ侍るかな
草をも称し言葉もちい草の事にと表
一天児ハ昔のうちへもちいの法を入婢子(ホウコ)など
也を作りて上に練衣ときせ白いすり杯なり
着れ彼をきせ命下のちさかからを信りし

目口を付髪をかけさせ其上に彩(イロトリ)墨也

目口を付髪をはせいまいに彩墨にて
辻毛の包中しを玉下耳のかくちハ何にて
もれて候様木本を付糸にて包具螺をも赤き
紙にて渋をし胴はは竹以二本を合せ比を本
究包そのうくを練衣にて渋くこ二本を合か
うこぼまて二和二重滴りて結い二本の
合せ目の前へ引出し又後へ廻して引さし結
いましてその下を女結いにして先をはさむ
也い乳の下を紙一重まきて包前の上部ゟて
色とんのうくし合帯も引まて二重まけ

従て安産に結ひのむさい文家より承引の
結紐結ひハ合帯と紙し二筋を衿をさし付
うしろへやりあからかの結めより通し腰に
安産にもまふし胴の中ハ上紅丸め模の
赤乃ことませ下ハ紙の赤きふて張り上に
この紙のよの縫うハうしろへおろし其を
是ハ當家にて調へ授け候よう〳〵
今をに其揃きこハ長きし差し古方不善
不吉よハらす事と至極穢の人形ハ神
愚三家の物ハまうりや

及三家の初いまうや

一天児ハ前かとより産月を定んしくさしける
アし絹ゑ布すると長久延命を出生お箱持し
前々細め産衆の宅吉日を選んて何者秘蔵
の男子とりまいらする也

一天児装束の事胴の体を錦にて縫ひぬる也
上紀白地袖を一重きもんちは唐綾松体
宝つくしを金銀の箔ニてすり箔を
もし絹すてあらかくもちふるへし嬰児の衣
気りけるん一衆に添ひ給ふは猶之加へりとめ
に入れの子ふ所へも差申候や万のあり

一 物を掛くる時は結ふなり
かくさるゝ袖又ハ袖着たるものゝ取はしき御
衣を大事と大事まれて先天児にきせ其後母
児のもりふるのといひめしくとも飾らるゝい
上弁子とソロヘいふなり

一 ちはし揃え悪しみハ天児の左之悪し
同前し髪并揃へ候ても祝言の時ハ白衣候
衆の先へ立つする三日のいはい弁も縁女同前
小ゟ悪しして悪し

一 男子の天児ハ元服の時也首結を振るや梅

右田をとらへて祝言を済ませ祷ゟつきまもや是ハ

右曰とゑらこ祝儀を済祈禱ハ達まや是ハ
久くちう猪ハ用捨有とい心へさしき又後
まて女郎子ふ事も無き時ハ男方北天児
と一所に女せのふ十し

一女の天児ハ祝言調ハ三日めのうちハ猪
とすく其後婿方より天児を一所ふ渡し御
渡乃たしそ之（女房へ）

一天児数年を茲させてあととも事も、
有ましく候

一宮参りの日男子ハ三十一日め女子ハ三十三日め

に算の下し父ハ三十いる乙母ハ七十有る乙とそ

其算有十しいふもしへハ又積石湛ふしいふ

下知ス今ハ供請供用饋酒すとや今

ましいふ弁持ちて来しとそ

一宮系の時新不隔持死右丸肉法神穂

さ事る十し祝儀の始式ハ祖にあり多し

ぬ下しけれハかへりたに算数いふしき

旧老のかくへまらよりたまふへきや

天児屋　曲長一尺又ハ一尺二寸

頭の丸さ一尺八寸
又ハ一尺八寸まわり
なとありやし



一寸九分径

横木也長一尺一寸

四分径

七分径

三分径

竹二尺廿七寸或九寸

紙表字様包

一御伽婢子ハめてたき祝年寄の方より参らせ
つしお内外も時ハ裏の先まてあり
つし小袖の下天児同前て天児と申
時ハ婢子ハ縮き方を五色ハ天児の縮しる
きしハ事と申す代女ゟハに

其ほかふうこの図

手足其先に種々かさりに肉にちんやを文
惣長一尺余又ハ一尺ハすこしせうり御下迄し





髪ハ墨ニてほしく余ニておしらへ後ニ二ツ
おへ二ツ上け金張ニてまふて

一 宿直(トノヰ)の太一対男ハ左向を第一に御もちと
のりや右向にハ何れも玩物(モテアソヒモノ)を入色し女ハ
右向ニ而もいれたをのや宿直の太刀
き方ハ秘(ヒソヒ)太の字を鉛(イロ)書(カキ)とする

このね大持図

高サ凡七寸長一尺余幅八寸

ありこし大小そろへ作りみせし

内ハ紙子草にて張

けもいらぬさみ七草

の肉を日曲しかとと

色外を持し流して

アし来こら座

あくされ

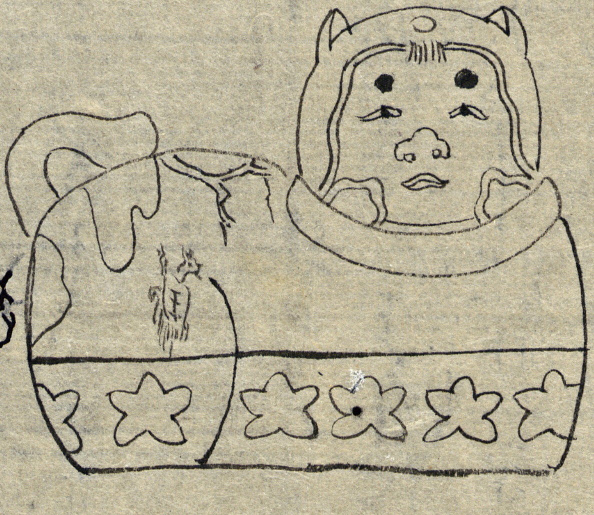


右

いつまもかうなと
のこゝく　ちうそ
をかし

一 茶の物をまゐらせし方ハ十夜此村祝
餞しい者物を下

一 宿函の犬を見る事大いよくおかこれ乃を
さり野干ねもやかしを拝ふ由可とねをかき



左

かさに用侍るやそのかみ〻宝亀四年戊
九重をいそきつゝ小道寺の大ゆりて寄付かを
すゝのふしのをつきかの神の社幾田丸の
御秋の内〻御門犬のかゝこそいまは人の
けむはおもひ出紅の色〻や今は武士の家
紅花を用ひ侍るく

一 笛の事罷出こそ第一の楽の式〻也
続を行はさはししてきぬつきやうをかほく
出まふりは同しるすやたゝし佐掃部を
一まと添をて鱗の事口伝



ちりんの緒の長サ壱尺六分
房守
房き八寸 結四寸

鈴の緒長サ守五分合緒をまし一ノ房付七但四寸之

寸法大形出来寄吟味随ひ出し金梅露
木松竹家の紋あしらひ書へし并露梅
家左右の環の金物ニ付る之
一弓掛指の袋の地ハ錦又ハ金襴袋の緒
紅四ツ打弓袋の緒と色同前之但表ニ東方
結ひして房を付る之搦掛指袋へ長結付
付へし袋ハ結留掛候

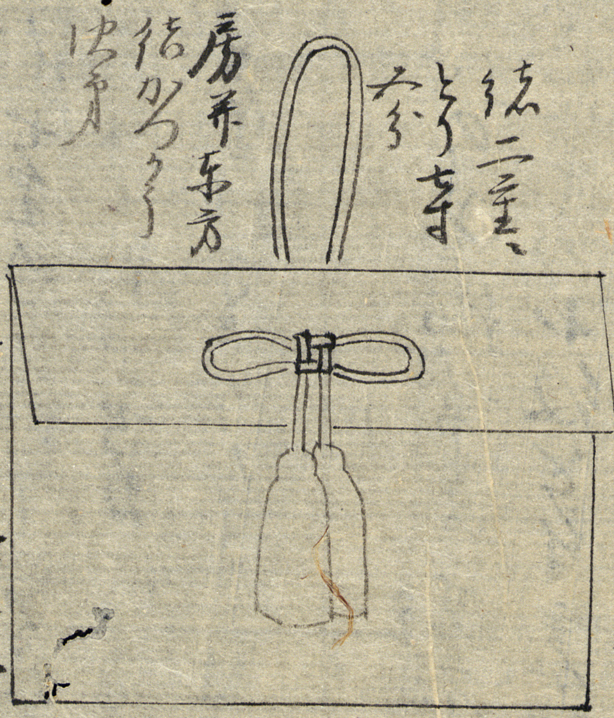
竪七寸五分

女子の弓袋ハ打

ちりめんにても絹にても紐ハ三尺ほと房ハ
紐と同し色なるへし房を付る也紐ハ
紐を付る所さけ見合

守袋之図





女子の守袋ハ縫
きぬもて円
の形にもちる
なし

右ハめいきてくたくさくきまて加んぐく成し給

一ちかをもさいみしくあり北條五大仁の

奥方とこそりゆりて纈帯をとめしそめ

里村甚五北七重の薬加くら家ゆいは

うふきくとにほくらせちかにすること

中将へ伝り七重ばかりなくく般指人ち

七すんの色れ縁をしけ時ののなりと給

一かみとり小袖の中纈帯の生衣を様

こゆきもふさにそあ紅絹をはらをとけて

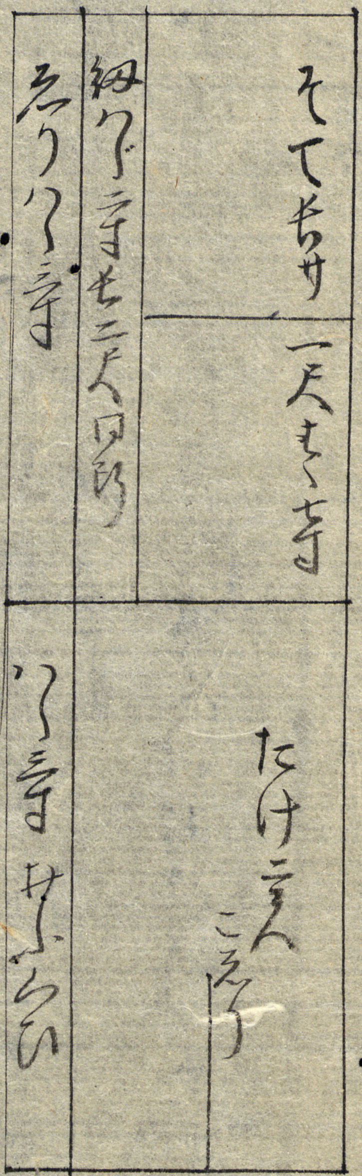
嬰児かめさせ下しをいしらハ祝言の書小あり

かふせり小袖のうら中に出縁衣の留の法

かふせり中紗のてうちやう羽織衣の幅の法

ありうりせちきしハかんぐくあるさや

長ハ尺もく一尺寸の法ありし絵



一 癇(カン)取草(トリクサ)の法

伝ふいもをみとはめかんとかくとらさ

積 虫草伝ミかきしるす



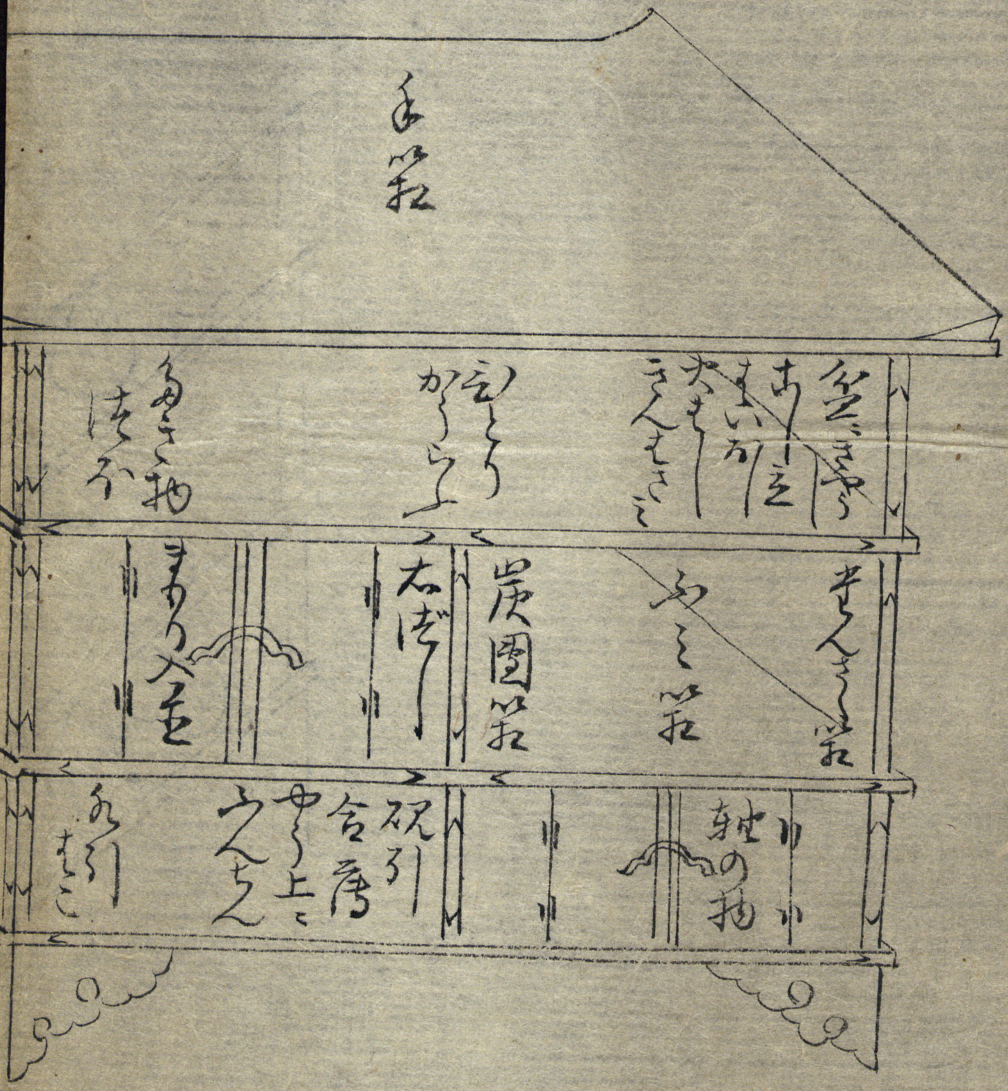
又連浅草又北河草

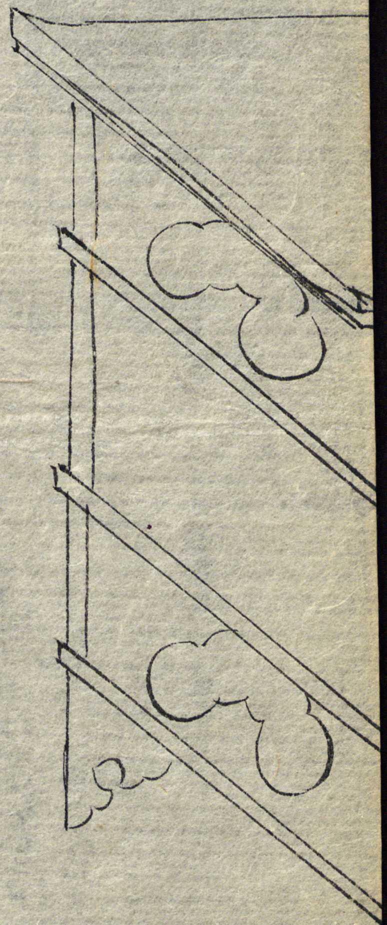
絞和露流稲荷付はちを
こゑんこ体常之文茂の
まちかいしは付るし
一組屋の方へ一と引出初まし
一代家に〔?〕こゑん丹付る——とは了石
右一まて——　——
——　——
水将卜也

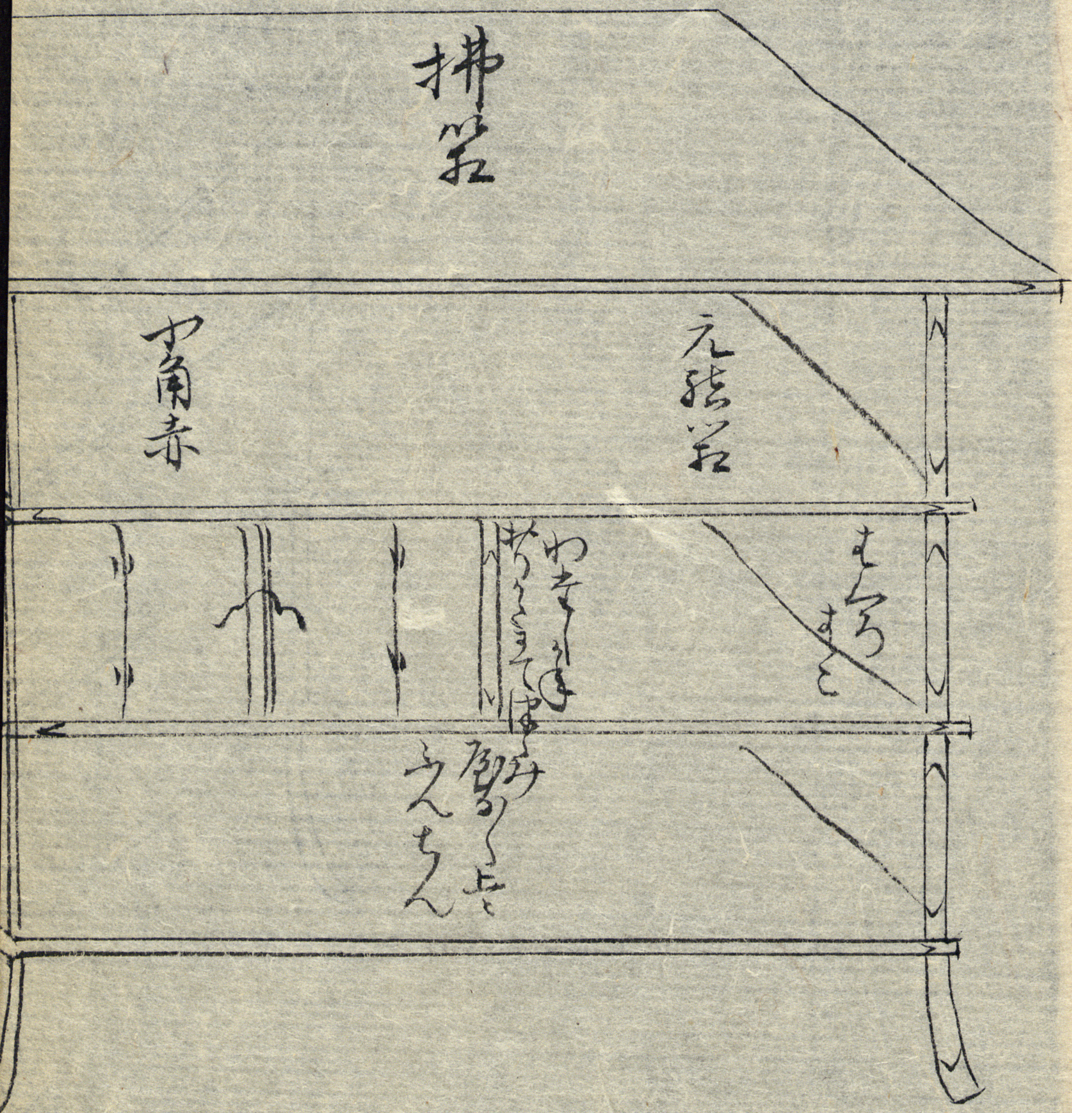


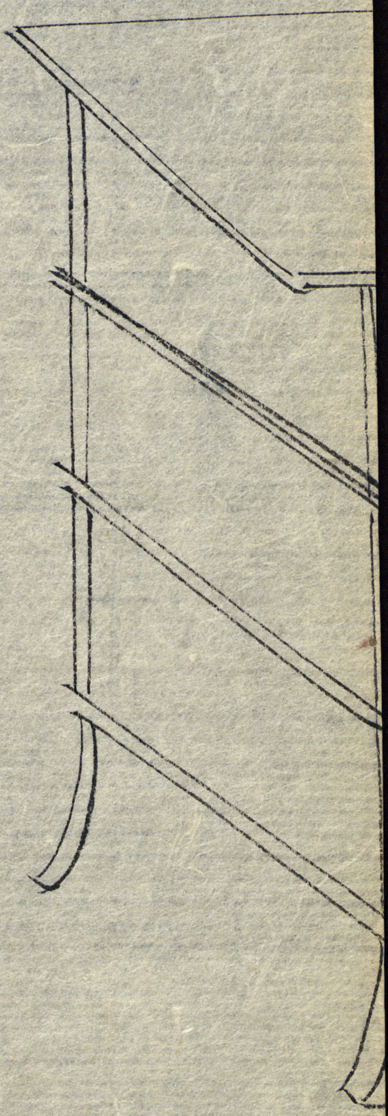
一書

一






寸角赤



二番

わざと申し
こしもとは
やましさんも
さとかしく

手名

あて名

名字名	名字いろは御	東村納
	硯	墨申し

元禄頃

かゝ添　孫引こ　文まこ

ちんまこ

八代集
古今集

小短冊箱

三曲

手組

ちん組

[illegible]

本手組

破手組

なんきう組

岩園組

古今

秘曲

十文組

[illegible]

破手組
又ハ上ニモ

耕宮

かん書き
ぐうちめい
か色く

まゆい宮	見ゐめ多	何もも	一	守出れ

取宴いう
座印く
ふんちん

世事

手紙

かみがんに
まいらせ
かしもし
たて

石人ゟ
文被給
のやうなり

さんさ様

ちむる

〆

強紙

〆

引合
土器紙
の包

拂まい

元禄名	当寄
一	もくろまい
やもく 上ゝ之 ちん	巳年し 孔のうす 中ゝ面包 所引きそ 致

七書

手紙

[illegible]

書きとめ

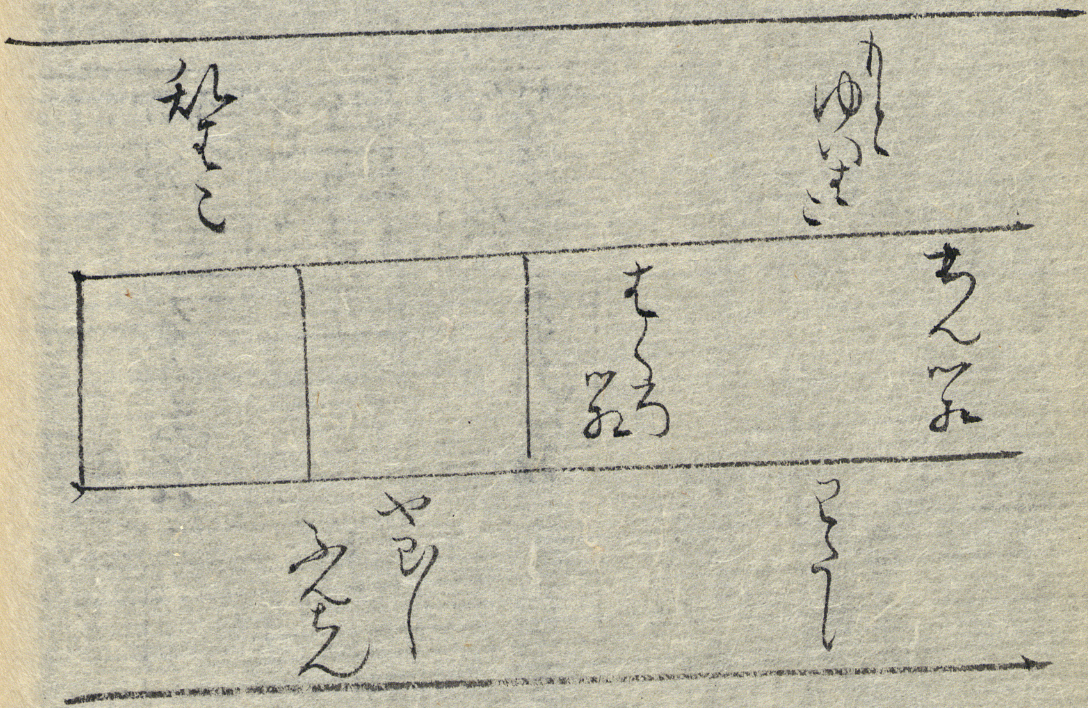
かり手紙

末手紙

引合の上に

多葉紙のもそ

大角寺



六もん

手紙

名乗宛　引合上く　すり紙のやう書

から紙よ

望宛　からかの　セて

一寸五分　書　上かり　ふんちん

拂まゐ

て字まと
比りぬ
えやゝ
ミ中ゝ家
八て

ありさと		一	もくろ まき
よし		なひ	えちん

七まん

手紙

きんさつ紙

ちん紙

かんのかゝり
ろうそくも
しまい
かし

かれかゝ
けたきれ
いまし

元老ふ
すゝ
うすゆ川

紙紙部
へてよし

引合
上々杉原
多紙

[illegible]

戌八月日

まゆい
まこ

小角舞

まつろ紙
うすつき
おつうすや
うこ泥し
金色
かくもと

ちん紙

まふい紙

標紙

ちやうぶ

血ゆ紙

まめ紙

金色て

松井はん
口ちえ助へ


H+K 2
GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart
15.01.2002